

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	ライクキッズ株式会社
施設名	にじいろ保育園鶉の木
施設所在地	東京都大田区鶉の木3丁目35-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界の音 楽器

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃のリトミック活動の中で、子どもたちは音楽に合わせて体を動かしたり、歌を口ずさんだりする姿が多く見られている。楽器を鳴らして音の違いを楽しんだりする姿から、自分なりに表現することへの関心が高いと感じた。そのため、春の自然や音楽を取り入れた表現活動は、子どもたちの興味関心につながると判断し、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

7月…音 (マギーからの世界ボックスに興味を持たせ、ひとつずつプレゼントを出してみる)

8月…歌 (英語教室での歌を通し、海外の先生にどんな鶉や音が聞こえるか聞いてみる)

9月・10月・11月…世界の子どもたち (オーストラリアの位置を見ながら海に囲まれている国をしってもらう)

12月…世界アート (講師より、世界の有名な絵画を教える)

1月…世界の楽器 (「どこの国の楽器でしょう?」と問いかけ、実際に叩き方を見せる)

2月…ケニアのこども (事前にケニアについてこどもたちにどこにあると思う? どんなくにかな? 等問いかけながら実際にどんな国かはなしておく)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

世界の人と交流を深めるため、zoomを設定した。

マラカス、電子ピアノ、絵本、和太鼓バチ、太鼓、ウッドブロック、タンバリン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ズームを使い、2園のケニアの友だちとお互いの興味あるものを伝え合う。楽器をお互いに使用しながらケニアの音楽に触れダンスを一緒にする。知らないダンスにも子どもたちは楽しんで興味を示せるよう事前に楽器を用意しておく。ケニアの友だちが変顔をしてくれたので一緒にしてみる。すんなり入れるようにケニアの事を伝えていた。事前のケニア情報がズームでの関わりに役立つ。専門講師が来ていただき世界のアートを見て感じる。加えて日本のアート・現代アートを見ながらそれぞれの子どもが「これ知ってる」「きれい」と言葉にする場面もありそのことばと逃さず専門講師が画用紙の一部に海外の絵を5cm角に木って張ったものを配る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

世界の楽器や音楽に触れる中で、子どもたちは「この音おもしろい!」「日本の太鼓と違うね」など、音の違いやリズムに興味を示していた。また、マラカスや太鼓を実際に鳴らしながら、友だちと「一緒にやろう」「同じリズムにしてみよう」と誘い合う姿が見られた。ケニアの友だちとの交流では、「こんにちはどう言うの?」「その楽器は何?」と質問するなど、相手の国や文化への関心を深めていた。保育者は、子どもたちが感じたことや気づきを言葉にできるよう「どんな音に聞こえる?」「日本の楽器と似ているかな?」など問いかけを行い、一人ひとりの発見や表現を受け止めながら関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの中から「オーロラだ」等知っている事があり、経験の差を感じた。ルールとして手を挙げて発言する約束がある中、発信してしまう子供の姿も見えたので、どのように発言するか良い機会となる。知りたい気持ちがおおくあり目を輝かせ見ている。違う世界を知ることでこんなに子どもたちの心の中の探求心つなげる活動になった。世界を映像で見えていたが以外に難しい事を感じワークブックで全く描けない子が担任に言いにくる子が多かった。今後の活動の中でどう伝えるかを考えていきたい。